

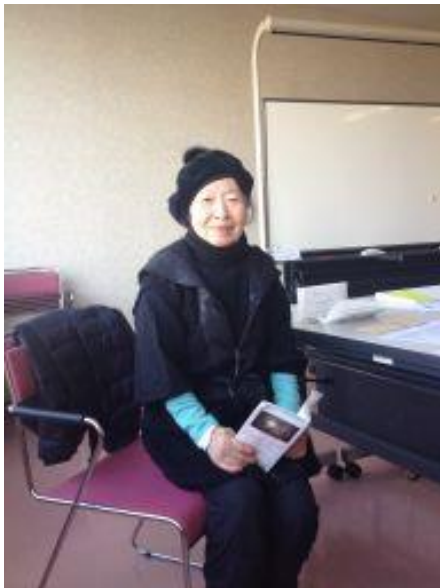
25 詩を書いてみよう

夢多く華やいで生きるために

- 受講料金 3,000円（6ヶ月3回分）
- 基本開催日程 2ヶ月に1回開催—第2火曜日 14:00～15:30 ※体験500円（1回のみ）
- 講師名 加藤 千香子／日本現代詩人会・大阪詩人協会会員、三重詩人所属、三重中京大学、鈴鹿医療科学大学、三重短期大学、皇學館大学・元講師、早稲田大学文学研究科博士課程前期修了、フランス滞在5年

講座内容の詳細

※この「講座内容の詳細」文面は基本的に講師ご本人が作成したものです。



人工知能が進化してくるとロボットも小説らしきものを書く。もちろん詩のようなものも書ける。このままいくと天才棋士がAI（人工知能）に負けたように、AIロボットの書く詩が、人間の書いた詩を押しつけて賞を取るようになる。大概の詩人は頭を抱えるが、真の詩人がいるならば、大笑いする。AIは人間が作り、操作した機械で、人間の身体は血管がはりめぐらされていて、自らが考え、思い、悩む。

ボブ・ディランが、ノーベル文学賞を受賞したが、ノーベル賞にふさわしい人物であっても、文学ではない。良心的な真摯な人柄だから、授賞式は欠席された。

フランス語の教室で、ノーベル賞の作品を読んできたが、戦後のカミュの作品から比べ、平易で誰にでもわかる作品

哲学的で難解な作品は、暗喩などテクニクを駆使すると嫌われる。いや、ロボットは、そうしたテクニクに精通するかもわからない。大事なことは、詩人は何よりも人間であること。人間とは何なのか、血の通った心と、魂を持った人間のつぶやく言葉が詩になる。ロボットでも書けるような詩を、見分けられること。今にAIは、中原中也の“ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん”（サーカス）より、上手な音韻の組み立てを行うだろう。今年はシュルレアジズムがどういふ世界情勢から、血のにじむような反骨精神と詩人魂をもって戦争という時代に詩の爆薬をかけたか。学びながら個々の作品を考えてみる。

※受講生の方々が、初めてから1年で、公募のコンテストで入賞されました。

- ◆著書 詩集「ギプスの気象」「塩こおるこおる」神戸ナビール文学賞、中日田縄文賞、「POEMS症候群」（土曜美術社）第56回中日詩賞受賞
- 主な料理書 「フランス料理大辞典」「チーズ料理」中央公論
- 世界民族舞踊コンクール 第二位入賞（イタリア）

開講予定日（2ヶ月に1回開催）

2021年11月9日	2022年1月11日	2022年3月8日
開催日程	開催時間	受講料6ヶ月(3回分)
隔月第2火曜日	14:00～15:30	3,000円